

## 平成 21 年度第 1 回 会計学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 7 月 18 日(土) 午後 2 時から午後 4 時まで
- II. 場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)
- III. 出席者：岸田委員長、椎名副委員長、高松、河崎、金川、阿部各委員  
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 検討事項

### 1. 課題の検討の前に

委員長から課題の検討を始める前に、まず事務局から学士力をめぐる現在の状況の説明および日本会計学会年次大会におけるの発表についての検討すること提案された。

#### (1) 学士力をめぐる状況

事務局から当面は学士力の構築に力を注ぐことが説明された。学士力をベースにコアカリや到達目標を関連付けながら検討することが要請された。検討結果は本年 11 月にはインターネットを通して公開し、意見収集をはかることが予定されており、本委員会も遅くとも 10 月末頃までには学士力を視野に入れながら、コアカリをベースに到達目標、評価・測定手段等を整備しておくことが必要との認識が示された。

#### (2) 会計学会での発表内容

「会計教育における教育の質保証への試み」として 2009 年 9 月 3 日の日本会計研究学会年次大会の自由論題で発表することが確認された(発表 20 分、質疑 10 分)。すべての分野に共通する要素である「会計学入門」をベースに発表内容を考えてはどうかとの提案があり、詳細は今後検討するとしながらも大筋では合意された。事前の打ち合わせとして 8 月 22 日頃に名古屋方面での会合を実施することが提案・了承された。

### 2. 課題の検討～各分野からの報告～

前回の課題となっていた事項について、資料に基づいて管理会計・会計学入門・会計情報システムの各分野から説明がなされた。

#### (1) 管理会計

評価方法の難しさと、演習問題のレベルをどの程度まで用意すべきか(極めて基本的な問題まで含めるか)が提言された。また、評価方法のひとつとして識別指数を使うことの意義が説明された。

#### (2) 会計学入門

課題にしたがって各回の到達目標を A (必修)～C (応用) ランクにレベル化し、レベ

レベル別に出題意図・形式が示された。また「会計の意義と機能」の講義回を取り上げ、レベルごとにどのような測定問題が必要か、サンプル問題をもちいながら、その出題意図・形式について説明がされた。会計学入門は各専門分野の内容を含有しているため、他分野との整合性を図るべきとの意見も聞かれた。

### (3) 会計情報システム

問題のサンプル例を中心に説明がなされた。分野の性格上、どうしても専門性が強くなるため、入門分野との連携や、一般レベル・中位レベルなど、レベル別に到達目標を設定することを模索することなどが提案された。

## 3. 今後の方針

学士力(案)を参考に、もう一度、各分野の到達目標を精査し、4つの学士力(案)と到達目標との関係を明らかにする。学士力はその科目を学ぶことによって、学生自身が取得できる能力を明示したものと認識に立って、まずここをきちんと制定し、それから教員の教育力へ議論を発展させていく。その際には旧態依然の科目配置の見直しや、真に新しい会計カリキュラム策定などが必要になってくることが予想される。

## 4. 次回までの課題

- (1) 各分野で到達目標と学士力(案)の組み合わせを考える
- (2) 学会発表用の資料の検討
- (3) 継続的課題として、測定方法の検討、各分野間の提携の模索、レベル別(入門・中位)の到達目標の検討等

## 5. 次回委員会

8月22日(土) 午後1時30分～午後5時 ベストウェスタンホテル高山 会議室

以上